

春芽増収のための刈取りまでの管理について②

R4.9 アグリ技研(株)

目標	①養分転流時期まで茎葉（緑）を維持する（草勢・吸収根の維持）。「光合成の活性化」
	②秋芽の収穫打ち切りを早くする（暖秋で遅くまで収穫すると春芽は減収傾向）。「秋の強制休眠管理」
	③褐斑や斑点病の対策は、防除と灌水調整で後半の蔓延抑制。

時期	10月			11月			12月			1月	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
今後の管理	≪ 養分転流の活発化に3～5日前後間隔で十分な灌水 ≫										
	生産量に応じた追肥			追肥（月に1回20～30kg）			止肥	（茎葉の緑色時まで追肥・刈取り30日前）			
	＊ 養分転流対策（最低気温10℃前後からPKゴー2000倍で3回葉面処理）										

ポイント	・止肥（袋物）の時期を明確にして刈取り前30日として多年生株で12上～中旬までとする。
	・止肥（袋物）は、遅効性肥料の「味太郎」3袋、珪リン酸2袋を畝上全面施肥して十分な灌水を行う。
	・止肥後も灌水時に液肥（10日置きにウルル10号・30kg）を混入して刈取りまで施用する（吸収根の活性化）。
	・灌水は刈取り直前まで3～5日間隔で十分に行う（糖分を貯蔵根へ転流作用）。
	・養分転流促進は、最低気温10℃前後になり最盛期PKゴー2000倍の処理（葉面散布若しくは灌水処理）。

肥料吸収の動き	◎収穫中の転流	吸収根⇒⇒貯蔵根⇒⇒若茎（収穫茎）⇒⇒茎葉（光合成）
	◎収穫後半～終了後の転流	吸収根⇒⇒貯蔵根⇒⇒春芽養分蓄積